



クムフラ円卓会議

Knmu Hula Roundtable Discussion カネフラを教える我らに覚悟あり

Guest: 池田雄記先生 牛島敬太先生

キャメロン・コナビリアヒ・バーカーシ先生 (以下敬称略)

Host: 田中 新

「ハワイ語でkuleana(クレアナ)というのですが、みんなクムフラとしてのクレアナ(覚悟と責任)をもってハーラウを主宰していますね」と新先生。ハーラウの数だけフラがあるとも言われる所以は、その個性豊かな佇まいにも現れています。これからのカネフラを担う4人のクムフラの覚悟は如何に？

3名の先生に来ていただいた理由

田中 この対談は、関東エリアで、15名以上のカネダンサーを擁する男性クムフラで、共に日本のカネフラを盛り上げていけたらと願う先生方にお集りいただきました。(3人とも照れながら) お～、それはどーも(笑)。よろしくお願いします!

田中 牛島敬太先生とは、同門の仲ですね。敬太先生のクムはレイ・フォンセカ氏で僕のクムはエトア・ロベス氏。二人ともアングル・ジョージ・ナオベ氏(以下敬称略)のもとで長く修業したクムフラです。

ハワイ島コナに住むクム・エトアとヒロに住むクム・レイはフラブラザーで、本当の兄弟のような仲でした。クム・レイが2010年に急逝する直前まで、毎日電話で「昨日、こんなことあった」「今度のメリー・モナークはどうする?」と話したそう。そんな二人の弟子である僕と敬太先生も、そういう関係でフラを続けていけたら、天国のアングル

(ジョージ・ナオベ) もきっと喜ぶと思っています。

敬太先生は少年時代からフラひと筋で、僕は、そんな敬太先生に及ばないところが多々あると感じていて、僕の斜め45度上にいるような存在。そして、フラに対しても粋に留まらない大きな人で、尊敬していますよ。

牛島 そんなこと言っつて、大丈夫ですか? ありがとうございます(笑)。

田中 池田先生とは、20年以上前に、僕が留学から帰国して、カラニ先生から初めてちゃんとフラを習った時に一緒にしたね。僕と僕の友達、そして池田先生。カネダンサーは3人しか集まらなかったけど、あの時、池田先生がいなかったら、僕はフラを続けていなかった。池田先生が真剣にフラと向き合っつて踊るから、僕も頑張ろう! となつて。でもそれから10年くらい、会うことがなく、あれ、僕って嫌われてるのかつて(笑)。

池田 いやいやいや、新先生は、お母さま

クムフラ円卓会議 Kmmu Hula Roundtable Discussion

の幸子先生のハーラウでバリバリやられていて、でも私はハワイのクムのもとに日本から定期的に通いひたすら修業の日々でした。クムから指導者として認めていただき、自分自身の中で指導者としてやっていけるという自信が持てるようになるまで肅々と精進していました。なので新先生は遠い存在だったんです。

田中 池田先生の学ぶ姿勢の一途さは、本当にすごい。カラニ先生も日本で名の知られた先生なのに、さらにハワイへ行って、アンクル・ジョージ・ホロカイが継承した正統派フラを、一から学んだんですね。きちんと学んで、きちんと教えている、そこがすごい。

最近、カネの生徒さんも増え、メディアにも出るようになって、僕や敬太先生のイベントにも顔を出してくれて、フラ界でもぐんぐん頭角を現してきた。それに僕たちは40オーバーの同世代だしね。

牛島 あの～、オレはまだ、40オーバーじゃないですよ。3月10日で40歳ですが。(編注・座談会は2月14日に行われました)

全員 ウソ、マジで？ まだ30代だったのか。

田中 てっきり年が近いと思ってた。そうか、カウアイ島のフラ・コンペで会った時、まだ十代半ばだったもんね。

でも、若いというなら、やっぱりキャメロン先生！ キャメロン先生が少年だったころ、イカイカ先生のところで踊っているのを見て、きっと次の世代で活躍する存在になると思っていたんだ。高名なクムフラの1人、アル・バーカーシの孫でもあるし。習っただけでなく、身に沁みついたフラを知っているからこそ、教えられることも多いと思うので、頑張ってほしい先生です。





2022年6月六本木パードランド。
曲目は「Hanauma」



2003年10月、カラニ・ホアマイヘアラニ先生
来日30周年記念コンサート。



2007年8月、ジョージオヘカネフラコンペティションで。



2007年8月、ジョージオヘカネフラコンペティションで。



カネフライベント「マナオラナ 2023」の楽屋にて。
正装の牛島先生と池田先生

少年時代のキャメロン先生は、先生方に憧れまくり

田中 座談会らしく“お題”を始めましょうか。まずは、それぞれが、自分以外の先生をどう思っているか。人として、クムフラとして、ダンサーとして。キャメロン先生からいきましょう。

キャメロン ボクから見たら、みなさん、めちゃくちゃ有名な先生たちです。しかも、牛島先生も池田先生もほぼ“初めまして”な感じなので、ここに居るだけで緊張してます。池田先生はトラディショナルなフラを教えられる先生ですし、チャントとカヒコにも力を入れているのが、尊敬でしかないです。

牛島敬太先生については……、ボクが中学生のころ、日本人のカネでメリーモナーク・フェスティバルに出た人がいるって聞いて、“すっげえ”と感激したのを覚えています。そのうち、ミュージシャンとしても活躍されているのを知って、ますます“すっげえ”と。あと、牛島先生はお見かけするたび、髪型が変わっていて。

牛島 金髪だったりアフロだったり。キャメロン 長かったり坊主だったり、次はどんなスタイルって、楽しみでした(笑)。新先生で印象深いのは、ホオラウレア・ジャパンに出場した時のこと。新先生は、お母さまの教室から出場していて、自分はイカイカ先生の生徒。偶然、楽屋が隣同士で、ちらりと見かける新先生とカネダンサーのみなさん、めちゃくちゃカッコよくて、ほくらガキンチョダンサーには憧れでしかなかったです。

先生は、自分の歌で生徒を踊らせるべき

牛島 次、言っていますか。じゃ、新先生について……。いやこれ、言われる方もむ

ずむずするでしょ(笑)。

新先生の魅力は、センスが良いこと。自分のこだわりというか、衣装やレイの美意識が確立されて、妥協しないところがすごいと、オレの目には映ります。フラに関しては、振り付けが好きです。根底にはアングル・ジョージ・ナオベのフラがあって、そこに創造が加えられて、すてきだと思う。

池田先生は、ジョージ・ホロカイの愛弟子だったアウケレさんたちから熱心に学ばれた。ハワイのクムフラに習うと、その名前だけに頼ってしまう先生も多い中、池田先生はジョージ・ホロカイのフラの系譜に身を投じている。受け継いだものを自分の中にしっかり修めて、やっていくんだという姿勢が、すばらしいと思います。それに、物腰も柔らかくて、礼儀正しく、髪型もいつもきちんとしているところも、好きです。

キャメロン先生は……まだあまり付き合いはないけど、踊りもスマートだし、歌にも臆さずチャレンジしているのがいいです。私がハワイで習ったフラは、自分で歌って、踊れて、教えるというのが当たり前で。日本では「歌が下手だから」と歌わない先生が多いけど、クムは美声でなくていい。音を外してもいい。生徒を踊らせるための歌なのだから。必要なことは全部、1人でこなせる、クムフラの完パケ(完全パッケージ)ってことだと思うので。

田中 (ちょっとバツが悪そうに) え〜っと、そう、その通り。僕は、人前では歌いませんけど、レッスンでは歌っているんですけどね(笑)。僕はミュージシャンではないので。

牛島 ほんと、近頃、新先生もいろんなシーンで歌っているじゃないですか。いいですよ。あと、見てわかるように、キャメロン先生には華がある。フラの先生としても、エンターテインメントのダンサーとして二足のわらじを履いても、素晴らしいことになるんだろうって感じですよ。

クムフラ円卓会議 Knmu Hula Roundtable Discussion

目指せ、クムフラの完パケ!

池田 フラは踊る人を映すというとおり、今日、ご一緒している先生方も三者三様。踊りのカラーとみなさんの個性がリンクしているなあと感じられて、楽しいです。新先生、座談会の場を作っていただき、ありがとうございます。

私もキャメロン先生とは初めてです。若い世代を担う人の中に、フラの家元というルーツを持つ日本人がいることに、いい意味で驚いています。若いからこそ、挑戦できることもたくさんあるので、自分の強みを生かすためにも、先を見据えて今から頑張っ

て活動してほしいと、まずはエールを送りたいです。

キャメロン(姿勢を正して) はい。ありがとうございます。

池田 そして、敬太先生がさつき、おっしゃった完全パッケージ。クムフラの完パケという言葉が、すごく響きました。自ら生み出すことができ、きちんと歌を歌って、チャントを唱え、生徒としっかり繋がれる。そんな、フラの当たり前が叶う世代に、自分たちは生きられることが幸せだと思うのです。

しかも、今日、集まった先生方はみなさん、クムフラとして、すべてを生み出すことができるスキルを持っている。本来のハワイ式の指導者であるということが、要だと思っ

んです。
長い年月を経て、フラ・スタイルを継承すべくプロセスをきちんと積んできた人間であること。ハワイのフラの世界と同様に、継承するフラ・スタイルを明確に持っていることが大きな点であると思っています。

ハワイアンに認めていただける日本のフラでありたい。私個人としては、常にハワイ式を目指していて、それこそが日本人がフラを楽しみ、ハワイへの恩返しにもなると自負

しています。

自分たちにフラを繋げてくれたクムフラたちと同じように、正しいハワイ式の完パケを目指すべきですね。

敬太先生の武器は、何と言っても人を魅了する声ではないかと。歌もいいですし、オリも素晴らしい。私もハワイでオリを学ぶ身なので、発音は気になるのですが、敬太先生は発声方法からテクニックまで、正確で素晴らしいと感じています。フラ・スタイルは、まさに敬太先生らしく、力強さと緩急もあって、私には出せない魅力だなと思います。

新先生は、関東に田中新先生ありのな、カネフラを引っ張る存在。SNSやメディアでカネフラの魅力を発信し続けていることに感謝です。お勉強的な要素をオブラートに包んで、フラの楽しさを全面に出す発信力が、それまでフラに興味なかった人たちをこっちに向かせていますよね。新先生のSNS力、見習わないと。

あと、レイや衣装、ステージの見せ方。どれも洗練されていて、お手本にしたいほどです。教わって出来るものじゃなく、天性なのでしょう。

今、何人のカネダンサーが所属している?

田中 日本では、カネクラスがあるハーラウは、まだまだ少ないのが現状。その中で、みなさんがカネクラスを始めたきっかけと、現状を教えてください。

牛島 2010年にハーラウを始めたんですけど、最初からカネクラスを募集しました。募集しないという選択は浮かびもなかった。ワヒネもカネも教えて当然って感じでした。今は17才から60歳後半で、15名くらいですか。

田中 そのカネの生徒さんたちは、どうい

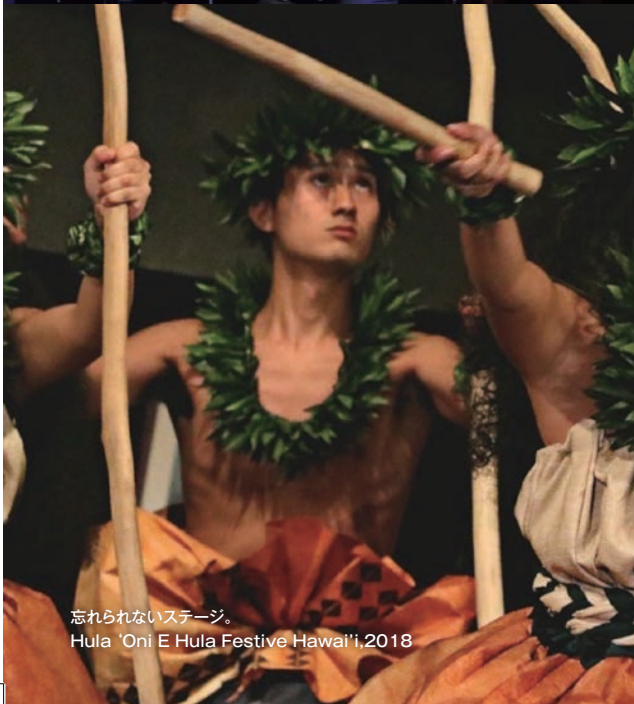




ちびキャメロンと祖父でありクムフラ、アル・バーカーシ



2019年、ハワイにて



忘れられないステージ。
Hula 'Oni E Hula Festive Hawai'i, 2018



ちびキャメロンと母

う経路でハーラウへ来たの？ うちの、奥さんが踊っていて、ご主人を連れて来るパターンも多かったけど。

牛島 あ〜、それはないですね。ほとんどがどこかのイベントやショーでカネが踊っているのを見て、勝手に検索してくれて、電話かメールをして来る。湘南・藤沢には、ショッピングセンターや公園でフラのイベントがわりと多く開かれるから、何気に目に留まって興味持ってくれる人がいるんだと思います。池田 私も自分が男性の踊り手なので、必然的にカネクラスも教えるものと信じていました。でも、2014年にハーラウを始めた時は、男性の生徒さんとご縁がなく、生徒はワヒネだけ。最初の、核となるカネの生徒さんが数名入ったのは2018年でしたよ。

そして、「マツコの知らない世界」(2022年5月17日放送)に新先生が出演されて、私のところも都内に教室があるからとメディアに紹介され、一過性でしたけど、体験クラスに多くの方が参加してくれた。結果、今は20代半ばから60代前半のカネダンサー20名が所属しています。クラス分けは、教室がそれほど広くないので、平日2つと土曜に1つ、計3クラスがカネです。

キャメロン ボクは、そもそも生まれた時から周りでカネダンサーが踊っている環境でした。当時、祖父のハーラウは、カネが中心でしたから、物心がついた時には、フラは男性が踊るものだと思ってました。

その後、ボクは4歳の時に母と東京・亀戸へ移り、それからハワイと日本を行ったり来たりで育ちました。日本でハーラウをスタートさせたのは、2017年。地元の亀戸にスタジオを構えたのですが、生徒はカーネだけでした。別に拒んだわけではないのに、池田先生のケースとは逆に、女性にはご縁がなかった(笑)。集まってきてくれたのは、30〜60代の男性ばかりで、入

門のきっかけは、地元のイベントなどでボクが踊るのを見て、興味を持ったという人が多かったです。コロナ禍が落ち着き始めたここ2〜3年で、やっとワヒネもぼちぼち来てくれるようになりました。

現在は亀戸のほかにも、横浜や板橋、群馬、大分などにもスタジオがあって、カーネは4歳から75歳まで、約45人くらいです。

男性の職業として、クムフラってどうなのか？

田中 この辺で、ちょっと本音の話を聞きたいのですが。とくに日本の場合、フラを教えているのは女性が多いじゃないですか。で、ここだけの話……、職業としてのクムフラってどうなの？ みんなはどう考えている？

キャメロン ボクは正直に言うと、不安定な要素が多いという意味でクムフラはどうかなど。

(全員 お〜と、どよめく)

それでも、ボクが高校2年の12月にハワイのおじいちゃんが亡くなってしまった時、亡くなる前に最後の電話がかかってきたのですが、期末試験当日の早朝だったので、最後のお別れは出来ませんでした。それから、考えるようになったんです。自分はおじいちゃんのフラを継ぐために生まれてきたんじゃないかと。親族の中でフラを踊っているのは、ボクだけだったから。

おじいちゃんのフラとハーラウを継承することに、何の迷いもなく、そうなるものだと。そして、今、ボクはフラを教える道を進んでいるんですけど、さすがにコロナ禍の時は、クムフラという職業の不安定さを思い知りましたね。

田中 キツかった？

キャメロン やばかったです。緊急事態宣

クムフラ円卓会議 Kumu Hula Roundtable Discussion

言が出ると、生徒さんはレッスンに来なくなったら、ボクは配達のアルバイトを2年くらいやっていました。

ハワイでも専門クムフラもいるけど、学校の先生とか銀行員とか、他の仕事を持って、その合間にフラを教えているクムフラも多いですね。

田中 給料をいただくお仕事と、フラを教えることは文化の継承だと、分けるということね。

牛島 でも、それを言ってしまうと、果たしてクムフラは生活のための仕事にしているのかっていう話に繋がってしまう。文化継承なら尊いけど、職業あるいはビジネスだとお金儲け的な匂いがする、という話ですよね？でも、そもそも、フラを教えて対価をいただくのは、ぜんぜん悪いことじゃない。アングル・ジョージ・ナオベは10代前半からフラを教えて学費を稼いでいたということだし。結局、ビジネスという言葉が人にどう捉えられるか、その違いだけで、クムフラの本質は変わらない。

もっと言わせてもらえば、オレはフラに関して、葛藤したことがなくて、だからみんなの心配が分らないです(笑)。

(全員、どよめいて) おお、かっこいい～!

牛島 奥さん、子どももいるし、家のローンもあるけど、将来どうなるかなんて考えたことないです。とりあえず、今稼げるからそれでいいし。基本的に、今が満足だったら、それでいいです。

田中 敬太先生は、“今”を生きる人なんだね。

池田 フラはいわば芸能で、人に夢を与えるという点で、自分が踊ることも人に教えることも、私にとっては誇れる仕事だと思っています。敬太先生が言われたように、職業クムフラでお金をいただくことも、しごく当然。私の大師匠のアングル・ジョージ・ホ

ロカイも、昔はワイキキでショーに出演していました。

ただ、クムフラという仕事に限らず、こんな時代だから、不安定さは気になるところではあります。でも、私はハワイの先生方に、きちんとフラの道を歩みますと約束したので、クムフラとして生きることに迷いはありません。

田中 話を聞いていて、気づきました。ここにいるみんなは、それぞれに責任を担っていて、それを全うして生きていくようにと、選ばれた人たちなんですよ。“だれか”に選ばれたのではなく、“フラ”に選ばれたんです。アングル・ジョージ・ナオベもよく言っていました。「You don't choose hula, hula chose you(君がフラを選んだんじゃない。フラが君を選んだのだ)」と。これは、宿命なのでしょう。

これまでと、これからのカーネフラ

田中 世の中的には、まだまだマイナーなカーネフラだけど、これまでとこれからのカーネフラについて、どう思いますか？

牛島 こういう場で、こんな意見で申し訳ないですけど、オレは、正直に言って日本のカーネフラの未来を、どうなってほしいとかないです。みんなで盛り上げよう！って努力するのはいいことだと思うのですが、でも、そういう人もいれば、オレみたいにどうも思わない人が、各々思うように進めば、結局バランスは保てる。カーネフラも、自然になるようになればいい、というのがオレの見解ですかね。ただ、フラはなくならない。

池田 私は、どうしたら、もっと多くの日本人男性が踊るようになるのか、考えますね。現状は、カーネフラに関して言えば、中高年の大人の習い事という感じがします。もちろん、健康にいいし、会社以外の人との繋がりも



クムフラ円卓会議 Knmu Hula Roundtable Discussion

楽しい。すごくいいモチベーションだと思う。

でも、もう少しだけ、ハワイの文化的な価値観で広まっていけば、カネフラの世界も広がるのかなと。

キャメロン ボクのこれまでの話ですけど、小学生の時、自分がフラをやっていると友達に言うと、「腰みの着けてフラフラ〜」って笑われ、すごくショックでした。ボクが知っているカーネフラは、あんなに男らしくてかっこいいのにな。高校生になってからは「イベントで踊るから、見に来て」って友人に声掛けたら、「え、火を吹くの？」って。いやいや、それはサモアの踊りだよ。

(全員、爆笑)

田中 それは、フラあるあるだねえ。ただ、たしかに今から50年くらい前、日本ではフラがキャバレーで踊られていたって話だし。そういう時代に、メディアやお笑いに露出されたフラのイメージが、今でも消えていない。

池田 ハワイでも、今も人気のディナーショーは、ポリネシアン・ダンスショーですからね。ハワイ、トンガ、サモア、ニュージーランド、タヒチ。これらの国の踊りが次々出てくるから、ハワイで見た観光客はあれが全部フラだと思ってしまう。ハワイ文化をもっと周知すべきで、例えば高校の歴史の授業などで、ハワイの歴史を紹介してもらったらいいんじゃないかと、本気で思っています。

田中 昔から変わらない、ずれたフラのイメージは、たしかに今だに多く残っているけれど、それでも、20年前に比べれば、少しずつハワイのフラが近づいてきたと思う。だからきっと、キャメロン先生の次の世代には、カーネフラが火を吹く踊りだという認識を持つ人は、少なくなっていることでしょう。最後になりますが、フラに興味を持ち始めた方のために、一言ずつ、フラが上手くなる秘訣をアドバイスください。

キャメロン 姿勢、大事です。うちのケイキの子たちも、最初は身体がぐらぐらで、しゅっと立てない子も、背筋を伸ばして踊る練習をするうち、次第に体幹が強くなる。するとフラの見栄えもぐっと良くなります。

池田 皆さんが学んでいるフラにはフラスタイルが必ずあります。フラはお手本となる先生の踊り方を模倣してなんぼの世界！一部始終を舐め回すように良く見て一語一句を聞き逃さない！五感をフルに使い、振り付けのみにとらわれずに醸し出す空気感を感じて欲しい。それこそがハワイのフラに近づく一歩です。あとは踊りの理想形を体現していくにはフィジカル面の向上と維持が必須であると感じています。世代問わずフラを楽しむために怪我をしない体、自分の体を自由自在に操る筋力と柔軟性は大切です。

牛島 これ自分の生徒にも言っていますが、「いい意味でナルシストであれ」。自分に酔いしれるのではなく、この世でだれより自分を知ること。眉の形、鼻の形、肘がきれいに伸びるか。人の目に映る自分を知ること。その意識があれば、フラも美しくなる。あとは、本気で上達したいなら、1年間、毎日1時間、練習したらいいと思います。オレは4年間、やりました。雨の日も、風の日も、毎日芝生の上で。

田中 せっかく興味を持ち始めたのであれば、ぜひこれから、目に映る樹木や植物、太陽や月、川や海などすべての自然や、雨や風、喜怒哀楽など肌で感じるすべての現象が、まるっとフラに繋がるんだということを覚えておいてください。そういった毎日の気付きが、よりフラの世界との親和性を高めてくれるはずです。

本日は、みなさん、ありがとうございました。

(text: 瀬戸みゆき photo: 広川智基)



クムフラ円卓会議 Knmu Hula Roundtable Discussion



池田雄記 (いけだ・ゆうき) 先生
ハーラウ・オ・ククナ・オ・カラール主宰

学生時代にクムフラ カラニ・ポオマイヘアラニ氏と出会い、10年間アラカイとしてフラの礎を学び、2011年9月にオラバフラとしてウニキ終了。その後、フラ界の重鎮のひとつ、マスタークムフラである故ジョージ・ホロカイ、その右腕であったクムフラのアウケレ・シアンコよりハワイ伝統のフラを継承。またチャンターでもありクムフラのカラニ・アカナの弟子ジョン・アイウォヒより学び、2014年11月にクムフラとしてウニキを終了。東京都東日本橋にククナオカラー※(太陽の光)という名の教室を開校。モットーは「日本人ではあるけれど、尊敬する恩師たちから受け継いだフラを、正しく継承する姿勢を貫く」こと。特にハワイ語のチャント(詠唱、オリとも言う)や楽器のフラに定評がある。またレイ作りやウクレレ演奏にも力を注ぐ。ハワイアンネームは、ケアラポノ。2007年ホオラウレアジャパン、ジョージナオベカネフラコンペティションにて優勝。

kukunaokala.net
Instagram @kukunaokala997

※教室名のククナオカラーとは、ジョージホロカイが愛したレイであり、言葉の意味である「太陽の光」で導かれたフラの道をまっすぐ歩んで欲しいというクムの願いが込められている。



牛島敬太 (うしじま・けいた) 先生
ケ・アヌエヌエ・フラ・スタジオ主宰

中学生の時に初めて見たハワイのカーネダンサーに衝撃を受け、13歳からクウレイナニ橋本先生、野村シン先生、その後、寺部ケイコ先生に師事。2006年より、ハワイ島ヒロのコミュニティ・カレッジに留学し、地元の有名クムフラ、故レイ・フォンセカのハーラウに所属し、フラ漬けの数年間を過ごす。2009年に帰国し、恩師レイの快諾のもと、神奈川県藤沢市に開校。スタジオ名のアヌエヌエはハワイ語で虹という意味。自身のハワイアンネームでもある。2009年、2011年、2013年にメリーモナーク・フェスティバルにダンサーとして出場し、何度も上位入賞。歌手としても活躍中。

keanuenue.com
Instagram @keanuenuehula



キャメロン・コナピリアヒ・バーカーシ 先生
ハーラウ・フラ・オ・カ・ウア・キリフネ主宰

1999年オアフ島生まれ。祖父は高名なクムフラ、アル・バーカーシで、幼いころからフラとハワイアン音楽に囲まれて育つ。その後、移り住んだ日本でフラを始め、2010年、クムフラ、イカイカと出会い、ハーラウ・ナー・カーネ・オ・イカイカに入門。2013年から2年間アラカイを務め、2015年に卒業。2016年に祖父よりウニキを受け、2017年から東京都江東区でハーラウ・フラ・オ・カ・ウア・キリフネ日本校を開校した。2018年9月オアフ島のフラ・オニ・エ・フラフェスティバルにハワイ校と共に出場して入賞。イベントやホテルのショーにも出演。

halauhulaokauakili.wixsite.com
Instagram @cameronkonapilihi



田中新 (たなか・しん) 先生
ハーラウ・ケオラクラーナキラ主宰

エッカードカレッジ(フロリダ・米)にて4年間国際関係学を専攻後、ハワイ大学マノア校大学院にて文化人類学を専攻。ハワイと日本の文化を研究し帰国。カラニ・ポオマイヘアラニ氏にフラの基本を教わる。以後、故ジョージ・ナオベに本格的にフラを教わり、2003年、生前彼の右腕として全幅の信頼を寄せたクムフラ(フラ指導者)エト・ロベスに師事。Hālau Hula Onaona 'O Ka Maileに所属しアラカイ(インストラクター)として活躍。2013年、自身のハーラウを立ち上げる。2013年ハワイ島ヒロにて行われた第50回メリーモナークフラフェスティバルにおいて、Hālau Nā Pua U'i'o Hawai'iのホオバア(ドラム)として日本人初の大役を務めた。フラのみならず、生花でのレイメイク、楽器作り、ハワイ語や歴史など、ハワイ文化全般に精通している。

halaukeolakanakila.com/
Instagram @shin.tanaka.lanakila